

たとき丸い石で三回なでると、必ず治るといわれているので、今でも子どもたちの姿が散見される。治ると河原から丸い石を探して来て御札に上げるのである。

天神様は学問の神様として、今でも進学の合格を祈る子どもたちが多い。菅野家には鎧兜、太刀、槍、鉄砲、馬具類など沢山の家宝があったが、明治四十三年の火災で多く失った。書画類も多くあったが、現有するのは、狩野貴信の大黒天像だけが残っている。

この話は私の四代前のコン婆様に聞いた話である。コン婆様は、氏神の勝利を知らせた「コンコン」の鳴声にちなんで付けた名前であった。大正五年、八十六歳でこの世を去った。

(話者 菅野精一)

## 熊田稲荷社の由来

### 《古館》

棗衝館の屋敷の西にあって、館の堀の土手の上に稲荷様の祠がある。熊田一族の氏神様である。昔は大きな社があったといわれる。

この稲荷様は、白河城主、松平定信公が、棗衝鹿島様の御分霊を白河に遷す時、この社に参拝して、道中受箱を奉納した。この受箱は、今も稲荷様の祠の中に納められている。

これは楽翁公の道中日記に記されているという。一説には、熊田稲荷大明神は、古館の館主、塚原伊豫守が勧請したともいう。